



セミナーのお知らせ

(アドバンス生命理学特論ではありません)

生殖巣の性分化を小型魚で調べる

金森 章 博士

名古屋大学理学研究科生命理学専攻
発生成長制御学グループ

日時：5月12日(木) 13:30-15:00

場所：E131 講義室

できたての生殖巣は、生殖細胞といくつかの種類の体細胞で構成されている。個体の雄か雌かへの決定（性決定）にしたがってこれらの細胞群は精巣か卵巣への分化を二者択一する（性分化）。魚類は、生殖細胞が卵と精子、どちらへも完全に分化できる場合が多いことや、性決定／分化の様式にはなほだしい多様性があることなどから、生殖巣の性分化を研究する格好の材料である。本セミナーでは最近の研究を2つ紹介する。1) メダカ生殖細胞が卵形成に入る時に発現を開始する転写因子、*figα*、をCRISPR/Cas9を用い破壊した。この変異体の表現型解析より、卵巣形成時の生殖細胞と体細胞間に働くシグナルの分子機構の解明を探る。2) RAD sequencingにより脊椎動物で唯一自家受精により殖える雌雄同体魚 *Kryptolebias marmoratus* の遺伝地図を作製した。比較ゲノムのアプローチにより雌雄同体性獲得の分子機構に迫る。

連絡先：黒岩 厚 ext 2994